

◎昭和44年度第9回理事会議事録

(45.2.27) 出席者：国分、尾之内、長浜の各副会長、羽田専務理事、内田、小川、岡田、倉田、後藤、末沢、鈴木(秀)、田中、高橋、平岡、星、毛利の各理事、仁杉企画委員会委員長。記事：柳沢会長病気のため欠席、国分副会長議長となり議事を進める。議事録署名理事の決定：国分副会長、羽田専務理事、高橋理事。

A. 報告事項：つぎの各項につき羽田専務理事から報告があり了承された；1) 会計報告。2) 刊行物頒布報告。3) 各種委員会その他報告。4) 昭和44年度土木学会賞応募状況について。B. 協議事項：2) 東京電力増資新株式払込について；羽田専務理事より説明があり承認。2) 関西支部事務所購入その他について。3) 膨張性セメント混和材を用いたコンクリートに関する研究の委託を承認。4) プレキャスト遠心力コンクリートくいの指針審議委託を承認。5) 第56回通常総会開催について。6) 役員候補者選考委員会開催について。7) 定例評議員会開催について。8) 企画委員会第1回報告に関連して。9) 会員の入退会について。10) 委員の委嘱について

- ① 昭和44年度論文賞選考委員会
委員 菊池 洋一 名古屋大学
幹事 浅川 美利 日本大学
松本 嘉司 東京大学
- ② 文献調査委員会
委員 清水 功雄 宮地鉄工所
- ③ コンクリート委員会
委員 森 茂二郎 小野田セメント
- ④ フライアッシュ小委員会
委員 藤井 敏郎 小野田セメント
宮前 繁也 北海道電力
- ⑤ 海洋開発委員会
委員 梶谷 正孝 梶谷調査工事
- ⑥ 昭和44年度丸干拓給越水道計画施工研究委員会
委員長 本間 仁 東洋大学
委員 岸 力 北海道大学
久宝 保 日本大学
鶴田 千里 運輸省
永井狂七郎 大阪市立大学
細井 正延 名古屋工業大学
溝口 裕 防衛大学
田村徳一郎 明治大学
堀川 清司 東京大学
中村 充 農林省
中谷 強 農林省
- ⑦ PC工法小委員会(フープコーン工法)
委員長 国分 正胤 東京大学
主査 河野 通之 日本交通技術
委員 足立 洪 日本道路公団
池田 康平 日本鉄道建設公団
伊東 茂富 建設省
猪股 俊司 日本構造橋梁研究所
上前行孝 首都高速道路公団

- | | |
|------|--------------------|
| 委員 | 尾坂 芳夫 国鉄 |
| | 岡田 清 京都大学 |
| | 岡村 清 東京大学 |
| | 加賀美一二三 山口大学 |
| | 神山 一 早稲田大学 |
| | 国広 哲男 建設省 |
| | 小寺 重郎 八千代エンジリヤリング |
| | 小林 一輔 東京大学 |
| | 小林 正几 法政大学 |
| | 後藤 幸正 東北大学 |
| | 近藤 時夫 国鉄 |
| | 堺 毅 日本大学 |
| | 下川 浩資 建設省 |
| | 菅原 操 国鉄 |
| | 千葉 静男 阪神高速道路公団 |
| | 津野 和男 首都高速道路公団 |
| | 長瀧 重義 東京工業大学 |
| | 西山 啓伸 首都高速道路公団 |
| | 西沢 紀昭 中央大学 |
| | 野口 功 日本鉄道建設公団 |
| | 樋口 芳朗 国鉄 |
| | 藤田 嘉夫 北海道大学 |
| | 船越 稔 広島大学 |
| | 松本 嘉司 東京大学 |
| | 三浦 一郎 日本コンクリート工業 |
| | 水野 高明 間組 |
| | 南 俊次 阪神高速道路公団 |
| | 村田 二郎 東京都立大学 |
| | 横道 英雄 北海道大学 |
| | 吉田 弥智 名古屋工業大学 |
| 幹事 | 田辺 忠順 東京大学 |
| 業界委員 | 伊藤 重賢 日本鋼弦コンクリート |
| | 岩永 俊彦 ビーエスコンクリート |
| | 佐藤 浩一 住友建設 |
| | 須川 昭 九州鋼弦コンクリート |
| | 鈴木 茂 日本鋼弦コンクリート |
| | 久松 光世 オリエンタルコンクリート |
| | 松村 泰年 極東鋼弦コンクリート振興 |
| | 吉田 正吾 鹿島建設 |
| 業界幹事 | 阿部 源次 日本鋼弦コンクリート |
| | 堺 博信 極東鋼弦コンクリート振興 |
| | 中条 友義 日本鋼弦コンクリート |

◎各種委員会

- (1) 会誌編集委員会 (45.1.16) 出席者：森委員長、ほか5名。議事：1) 経過報告。2) 会誌55巻6号編集の件。3) その他。
- (2) 土構造物の設計標準に関する研究委員会第10回幹事会 (45.1.16) 出席者：関係者16名。議事：1) 第9回幹事会議事録の確認。2) 第2章直接基礎の原案の検討(第4条より)。3) 第3章くい基礎の原案の検討。
- (3) 視聴覚教育委員会映画・スライド調査小委員会 (45.1.16) 出席者：関係者4名。議事：アンケート集計結果の取

りまとめ方および印刷方法および掲載形式等について打合せを行なった。

(4) 高校土木教育白書編集小委員会幹事会 (45.1.17) 出席者：三宅幹事長、ほか5名。議事：高校土木教育白書(仮称)に掲載の座談会のテーマ等について幹事会意見の統一を行なった。

(5) 高校土木教育白書小委員会(座談会)(45.1.17) 出席者：関係者10名。議事：高校土木教育白書(仮称)に掲載の座談会を次のテーマによって行なった。“これからの高校土木教育に何を期待するか、また、そのあり方について”

(6) 視聴覚教育委員会教育プログラム研究小委員会 (45.1.19) 出席者：関係者5名。議事：教育テクニックとしての視聴覚教育の方法を研究し、土木教育の方向を提案するためつぎの項目につき打合せを行なった；1) 視聴覚教育の意義、2) 土木と視聴覚教育、3) 土木教育における当面の視聴覚教育の方向。

(7) 第20回原子力土木技術委員会 (45.1.19) 出席者：左合委員長、ほか10名。議事：1) 前回議事録の確認。2) 第7回理工学における同位元素研究発表会について。3) 第8回原子力総合シンポジウムについて。4) 動力伊安全基準専門部会について。5) 企画委員会との連絡について。6) 原子力土木技術に関する新情報の提出とそれに関する討議。7) 会誌掲載原稿(土木界の話題)について。

(8) フライアッシュ小委員会 (45.1.20) 出席者：国分委員長、ほか20名。議事：1) 補足実験中間報告について。2) その他；①長期試験の今後の取扱いについて、②今後の委員会運営について。3) 海水の作用を受けるコンクリートの中性化について。

(9) 琵琶湖の将来水質に関する調査小委員会(第5回) (45.1.20) 出席者：岩井委員長、ほか9名。議事：1) 各分科会作業報告。2) 昭和44年度報告書作成要領について。3) 執筆分担について。

(10) 大学土木教育委員会第13回幹事会 (45.1.20) 出席者：奥村委員長、山口幹事長、ほか4名。議事：座談会「大学土木教育に望む」の進め方について打合せした。

(11) 大学土木教育委員会(座談会) (45.1.20) 出席者：奥村委員長、山口幹事長、ほか11名。議事：「大学土木教育に望む」をテーマとして座談会を行なった；(卒業論文研究、実験、実習、見学、設計、製図、講習会、特別講義、講議等について伺った)。

(12) 橋梁構造委員会第13回耐風設

計研究小委員会(45.1.21)出席者:平井委員長,ほか15名。議事:1)構造物の耐風性に関する第1回シンポジウムについて。2)講演「強風下における着水雪送電線の異常動揺」東京電力柏村良一氏・藤倉電線 大月 晃氏。

(13) 終局強度設計小委員会幹事会(45.1.22)出席者:関係者5名。議事:コンクリート・ライブラリー登載原稿の調整を行なった。

(14) 視聴覚教育委員会(45.1.22)出席者:丸安委員長,統幹事長,ほか6名。議事:1)選定映画報告。2)教育プログラム研究小委員会報告。3)映画・スライド調査小委員会報告。4)コンクール企画・準備小委員会報告。

(15) 第11回企画委員会(45.1.22)出席者:仁杉委員長,石原前会長,羽田専務理事,ほか14名。議事:1)建設コンサルタント業関係のアンケート中間報告について。2)理事会に対する第1次報告書の概要について。

(16) ずい道の合理的設計に関する研究小委員会幹事会(45.1.23)出席者:関係者9名。議事:第1回試験結果について。2)本試験(第3回~第22回)の試験計画について。3)その他。

(17) 終局強度に関する打合せ(45.1.24)出席者:関係者5名。議事:1)道路橋の活力および荷重について。2)鉄道橋の活荷重について。

(18) 海外活動委員会幹事会(45.1.27)出席者:太田尾委員長,ほか6名。議事:1)前回委員会報告に関連して。2)委員会あての手紙の処理について。3)座談会・懇談会予定について。4)その他。

(19) 耐震工学委員会第8回常任委員会(研究会)(45.1.27)出席者:久保副委員長,ほか24名。議事:1)連絡事項;①第3回日本地震工学シンポジウム(1970)について,②昭和44年度土木学会賞候補推薦について,③科学研究費の申請について。2)研究会;①降伏後非対称復元力特性をもつ一自由度系の振動応答計算 伯野常任委員,②杭の付加質量についての一つの試み 東大生研 佐藤暢彦氏。

(20) 沈埋トンネル小委員会幹事会(45.1.27)出席者:大平委員長,ほか5名。議事:沈埋トンネル便覧(第1次案)の審議検討。

(21) 会誌編集委員会打合せ(45.1.27)出席者:関係者10名。議事:1)経過報告。2)海外問題の特集について協議。3)執筆手順等協議。4)その他。

(22) 衛生工学委員会(45.1.30)出席

者:寺島委員長,ほか16名。議事:1)国際水質汚濁研究協会加入状況の報告。2)各委託研究小委員会報告。3)土木学会賞の推薦について。4)国際会議国費派遣者の推薦について。5)衛生工学研究討論会のあり方について。

(23) 岩盤力学委員会第1分科会地質調査打合せ(第13回)(45.1.30)出席者:堀主査,ほか5名。議事:地質調査に関する解説書の原案について検討した。

(24) 水理委員会打合せ(45.1.30)出席者:関係者6名。議事:「昭和44年度水理学研究の現況」の原稿とりまとめを行なった。

(25) プレストレストコンクリート設計施工指針改訂小委員会材料施工分科会主査幹事会(45.1.30)出席者:樋口主査,ほか7名。議事:プレストレストコンクリート設計施工指針編改訂原案の逐条審議を行なった。

(26) 土木計画学研究委員会幹事会(45.1.31)出席者:八十島幹事長,ほか18名。議事:1)経過報告。2)第4回シンポジウムの進行・記録法の件。3)石川賞の件。4)その他。

(27) トンネル会議実行委員会(45.2.2)出席者:14名。議事:1)OECDトンネル会議;①OECDトンネル会議出席者について,②OECDトンネル会議報告者の意見について,③OECDトンネル会議映画提出について。2)第6回トンネル工学に関するシンポジウムの外国講演者について。3)外国向プログラムについて。

(28) 耐震工学委員会打合せ(45.2.2)出席者:関係者7名。議事:応答計算に関する具体案作成につき打合せした。

(29) 昭和44年度海岸工学委員会第3回幹事会(45.2.3)出席者:岩崎委員長,堀川幹事長,ほか6名。議事:1)第2回委員会議事録について。2)第17回海岸工学講演会開催について。3)土木工学叢書委員会の「海工学」の執筆について。4)委員会の活動方針について。5)Coastal Engineering in Japanについて。6)昭和44年度土木学会賞候補推薦について。

(30) 水理公式集改訂委員会「河川部門」打合せ(45.2.3~4)出席者:岸主査,芦田副主査,ほか4名。議事:水理公式集38年版の改訂について;「河川編」の改訂原稿第1次原案についてその調整を行なった。

(31) 第1回田中賞選考委員会幹事会(45.2.5)出席者:関係者3名。議事:1)第1回田中賞選考委員会議事録の確

認。2)両部門候補の調整。3)予選の方法について。4)今後の日程について。

(32) 岩盤力学委員会打合せ(45.2.5)出席者:林,高橋の両主査,北原幹事長,ほか3名。議事:1)青函トンネルの委託研究の件。2)委員会の今後の運営方法について。

(33) 空港舗装研究委員会アスファルト舗装部会幹事会(45.2.6)出席者:1)関係者5名。議事:アスファルト試験舗装の実施につき打合せした。

(34) 地震応答を考慮した橋梁下部構造の耐震設計の研究委員会第2回幹事会(45.2.7)出席者:関係者21名。議事:1)第1回委員会議事録の確認。2)井筒の振動試験結果。3)同上の解析。4)橋梁の動的解析例。

(35) 水理公式集改訂委員会「水文部門」打合せ(45.2.7)出席者:石原主査,芦田副主査,ほか4名。議事:水理公式集38年版の改訂について,「水文編」の改訂原稿執筆状況について報告しあい,各自よりの問題点を検討した。なお2月末までに第1次原案を完成することを申合わせた。

(36) コンクリート委員会コンクリート用語小委員会(45.2.9)出席者:国分委員長,ほか7名。議事:コンクリート用語の規格化について打合せを行なった。

(37) 土木計画学研究委員会(45.2.7)出席者:八十島幹事長,ほか19名。議事:1)経過報告。2)第4回土木計画学シンポジウムの反省および出版の件。3)第5回土木計画学シンポジウムの件。4)第3回土木計画学講習会の件。5)シリーズものの出版計画の件。6)その他。

(38) 文献調査委員会(45.2.9)出席者:新谷委員長,ほか4名。議事:1)会誌55巻4号登載抄録について。2)解説記事について。3)文献分類項目について。

(39) 海洋開発委員会幹事会(45.2.10)出席者:本間委員長,ほか4名。議事:海洋開発シンポジウム開催について。

(40) 土構造物の設計標準に関する研究委員会第11回幹事会(45.2.10)出席者:関係者10名。議事:1)第4章くい基礎の条文および解説文の検討。2)今年度までの工程およびまとめについて。

(41) 海外活動委員会幹事会(45.2.12)出席者:太田尾委員長,ほか12名。議事:海外で勤務された方々を招いて懇談会を開いた。

(42) 水理公式集改訂委員会正副主査会議(45.2.12)出席者:吉川委員長,岩垣副委員長,ほか8名。議事:1)水理公

式集改訂に伴う各編の作業進捗状況について。2) 執筆にあたっての問題点の検討および調整。3) 今後の作業予定について確認。4) その他。

(43) 水理委員会第4回幹事会(45.2.12) 出席者: 林委員長, ほか12名。議事: 1) 昭和44年度水理学研究の現況について。2) 水理委員会内規案について。3) 水資源開発委員会(仮称)案について。4) 1970年水工学夏期研修会開催計画案について。

(44) 水理委員会第2回水文学小委員会(45.2.12) 出席者: 石原委員長, ほか9名。議事: 1) IHD中間総会について。2) 研究体制について。3) 水文学の問題整理について。

(45) トンネル会議論文委員会打合せ(45.2.13) 出席者: 伊吹山委員長, ほか6名。議事: 第6回トンネル工学に関するシンポジウムの国内講演者論文執筆に関し打合せを行なった。

(46) 昭和44年度第3回水理委員会(45.2.13) 出席者: 林委員長, ほか29名。議事: 1) 前回議事録の確認。2) 昭和44年度水理学研究の現況の調査について。3) IAHRについて。4) 1970年水工学夏期研修会について。5) 日本学術会議水力学・水理学研究連絡委員会について; ①水文学研究体制について, ②水理

学関係の長期研究について。6) 水理公式集改訂について。7) 委員会内規について。

(47) 表彰委員会打合せ(45.2.14) 出席者: 高橋主査, ほか2名。議事: 表彰規程ならびに表彰委員会内規につき打合せを行なった。

(48) 土質実験指導書編集会議(45.2.14) 出席者: 関係者4名。議事: 土質実験指導書の改訂について, 問題点を再検討した。

(49) 土構造物の設計標準に関する研究委員会第12回幹事会(45.2.14) 出席者: 関係者15名。議事: 第4章くい基礎(第11条より)の原案の検討を行なった。

(50) 視聴覚教育委員会選定映画審査会(45.2.14) 出席者: 関係者6名。議事: 「港湾」関係4本につき審査を行ない「本四連絡橋調査・プレパックドコンクリート実験」を選定映画とした。

(51) 土木年鑑編集委員会(45.2.17) 出席者: 春日屋委員長, 湯浅副委員長, ほか15名。議事: 1) 経過報告。2) 1970年版の反省。3) 1971年版への改訂希望事項協議。4) その他。

◎その他

(1) 第6回衛生工学研究討論会(45.1.30~31)

場所: 土木図書館講堂

参加者: 約200名

講演数: 16件

(2) 第3回日本地震工学シンポジウム(1970)第2回運営委員会(45.2.3)

出席者: 福岡委員長, ほか19名。議事: 1) 論文選考・刊行・会議運営合同部会経過報告。2) 開催と発表論文の募集について。3) 予算案について。4) 今後のスケジュールについて。

(3) 第6回岩盤力学に関するシンポジウム(45.2.5~6)

場所: 土木図書館講堂

参加者: 約180名

講演数: 18題(内特別講演1題)

(4) 土木計画学研究委員会第4回土木計画学シンポジウム(45.2.7)

場所: 土木図書館講堂

参加者: 157名

主題: システムフローとしての土木計画

(5) 第14回水理講演会(45.2.13~14)

場所: 発明会館

参加者: 約220名

講演数: 15題(他に国際会議報告1題)

(6) 河川災害に関するシンポジウム(45.2.14)

場所: 発明会館 講演数: 6題

編集 後記

新年度を迎えて, 会員諸氏には張り切った仕事に, 研究に, あるいは勉学に専心しておられることと思います。

本号では, まず本誌2月号でも話題にのぼった, 土木分野におけるコンピューターの応用例として2題, 河川における洪水制御, および橋梁の原寸の数値制御について紹介することにしました。また, 先般行なわれた1級土木施工管理技士の技術検定は, 建設工事の施工にあたって施工管理の重要性の認識の高揚, ならびに現場の主任技術者に対する社会的な適正な評価の必要性などのうえから, われわれの関心が深いところです。そこで, この制度の発足にあたっての背景や試験の模様などについて, 取り上げてみました。

次に飛騨川バス転落事故によって改めて見直された山岳道路の設計について, 東京電力奈川渡ダム工事による付替え道路の工事で苦勞された点を報告していただきました。

さらに, トンネル標準示方書の改定, およびシールド工法設計施工指針の制定, ならびに土質試験法の改定について, 本号でこれらの内容および主旨を解説することにしましたが, いずれもトンネル工学委員会, 土質工学会に関係する専門家の方達の非常なご努力によって, 制改定が実現されたものであり, 敬意を表わす次第です。

1970年の春は, 万国博によって開かれました。過去10年間を振り返って見ても, 東海道新幹線を始め, 東名, 名神など本格的な高速道路の開通など, 技術革新の成果は目ざましいものがありますが, 1970年代にはさらに多くの土木技術者の夢がかなえられるでしょう。瀬戸内海大橋, 関門大橋, 山陽新幹線, 津軽海峡連絡トンネルや国土縦貫ハイウェイなどの完成が予想され, さらにその次の年代に向っての基礎研究(たとえば海洋土工学などのビックサイエンス)が始まることが想像されます。(及川陽・記)